

第1回京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議（スポーツリエゾン京都）
会議録

日 時：平成23年8月19日（金）午後4時～午後5時30分
会 場：京都市役所 F 会議室
出 席：＜委 員＞ 山下委員長，松永委員長代理，石野委員，片山委員，雑賀委員，
高屋委員，檀野委員，二木委員，長谷川委員，森井委員
（欠席）吉田委員
＜京都市＞
（文化市民局市民スポーツ振興室）
下間スポーツ企画課長，武内スポーツ企画課担当課長，池田ス
ポーツ振興課長 ほか
（オブザーバー）
教育委員会事務局体育健康教育室

- 1 開会（事務局）
- 2 挨拶（二木スポーツ担当局長）
- 3 委員紹介（事務局 資料1）
- 4 会議設置要綱説明（事務局 資料2）
- 5 委員長選出，委員長職務代理者指名
- 6 スポーツ基本法について（資料3，資料4）

（1）資料説明（事務局）

山下委員長 ただいまの説明に対して，何か質問等はあるか。
高屋委員 体育指導委員の名称変更はいつごろ行われるのか。
事務局 6月24日に法律が成立し，8月24日に施行されるため，8月24日付けで体育指導委員からスポーツ推進委員に名称変更を行う。
山下委員長 名称変更に伴って，スポーツ推進委員の業務は変わるのか。
事務局 条文自体は旧法から若干変わっているが，実際に体育指導委員が活動するうえで大きな変化はない。

7 議事

（1）京都市スポーツの絆が生きるまち推進プランの進捗についての説明（事務局）

雑賀委員 するスポーツのソフトウェアの中で，学区体育振興会連合会会長を対象としたニュースポーツの体験大会の実施とあるが，もう実施されているのか。
事務局 毎年6月に各学区会長に集まっていたき，ソフトバレーボール，インドアペタンク等を体験していただいている。その体験を地域に持

ち帰っていただき、地域の方に広げていただいている。

雑賀委員
事務局

その取組みは裾野まで広がっていないように思われるのだが。

色々なニュースポーツがあるので、地域にふさわしいニュースポーツを行っていただければと考えている。

雑賀委員

私は京都市老人クラブ連合会として、高齢者に合ったニュースポーツを取り入れようとしており、今度スカイクロスの研修会を行おうと考えているが、このような情報でさえ、広がっていかない。

今年の10月に滋賀県で全国スポーツレクリエーション祭があるが、この情報もたまたま行ったところで知った。

学区体育振興会会長を対象とした研修会となると、情報が行き渡らないと考えられるのではないか。

事務局

研修会の内容を地域に持ち帰っていただくことに力を入れていきたい。スカイクロスについては、体育指導委員を対象に研修会を実施している。このような取組みがしっかりと地域に根付いていくような仕組みを考えていきたい。

高屋委員

実際、ニュースポーツはなかなか普及していない部分があるので、体育協会が発行している「ダッシュ」等で広報をしていくことや、道具の貸し出し制度等があれば広めていけるのではないか。

事務局

京都市、市体育振興会連合会として、グラウンド・ゴルフのスティック等を保有しているが、実際に使うのは一時期であるため、貸して欲しいという問い合わせがあればお貸ししている。これを市民の皆様に広く周知していけば、広がっていくのではないかと考えている。

雑賀委員

ニュースポーツを普及していくためには、様々な方面からの広報が必要である。

松永委員長代理

今の雑賀委員の意見にも関連するが、今後進ちよくの報告をされる際は振興計画の重点戦略と合わせながら、実施計画を立てて遂行するほうが良いのではないか。特に情報の問題は様々な団体から課題として挙げられている。情報の問題をどうしていくのか、考えていかなければならない。

事務局

まさしくその通りかと思う。計画策定後、数ヶ月の間でどのように報告すればよいか考え、今年度の事業概要を説明させていただいた。

重点戦略についてだが、スポーツインフラ京都については、2つの事業を行っているが、5年後の中間見直しごろを目途に中長期的な計画が立てられればと考えている。

スポーツリエゾン京都リエゾンについては、本日立ち上げられたので今後様々なつながりを作っていければと考えている。

最後に、スポーツウェブ京都についてだが、どういう風に進めていけばいいか悩んでいるところである。雑賀委員ご指摘のように貴重な情報が必要な人に届かないという現状があるが、一つはリエゾンなどの人的交流の促進や、インターネット上でここを見ればスポーツの情報が得られるというサイトを作るといことも考えられる。是非とも皆さんのご意見をいただきながら進めていきたい。

山下委員長

スポーツウェブ京都はスポーツリエゾン京都と表裏一体である。スポーツウェブ京都を、一つのプロジェクトとして考えていかないといけないかもしれない。

(2)「リエゾン」に関する説明（山下委員長 概要説明）

山下委員長

ただ今、リエゾンの概要について説明させていただいたが、一回目ということもあるので、どのような団体間や世代間のつながりが考えられるか、お一人お一人のご意見やアイデアをお伺いしたい。

石野委員

まず、この会議で何を考えるのか、的を絞って話を進めていく必要がある。

私は、一般の人はスポーツをしたいという気持ちがあるが人と人のつながりがなくて出来ていないのだと思う。若い人はインターネットで情報収集できるが、お年寄りにはできない人も多い。

また、情報についてだが、市民しんぶんやダッシュに様々な情報が掲載されているが、市民の方は忙しくて見ることができていない。そのような方々にどのようにスポーツの情報を知ってもらえるのか、考えていかなければならない。

片山委員

障害者スポーツはボランティアの数が少なくなってきている。陸上、アーチェリーや水泳等は全国大会の予選を含めて毎年試合をしており、ボランティアの方の数が足りない。そのような中で、スポーツ推進委員の方にボランティアを手伝っていただくようなつながりができないかと考えている。

全国障害者スポーツ大会では、公式種目と非公式種目の待遇が違う。卓球バレーという競技では、ボランティアの方が交通費等すべて自分のお金でやりくりしている。このような状況はどうにかならないかと考えている。

まずは、例えば老人クラブとつながって、卓球バレーをする際、老人クラブの方に審判していただくのは難しいので、スポーツ推進委員の方に担っていただくなど、ボランティアに参加いただける方を増やして、卓球バレーを広めていきたい。

雑賀委員

私は、山科区内で京都山科スポーツ連合という任意団体を運営し、ゲートボール、グラウンド・ゴルフ、ペタンク、ボウリングの4種目を行っている。

会員は300名を超えた。今年の11月には会員の方以外にも参加できる勤修寺公園で創立20周年記念イベントを行いたいと考えている。

また、この団体では世代や年齢を超えてグラウンド・ゴルフなどを行っている。さらに、ペタンクも京都市老人クラブで、行政区を超えた交流を行っている。

高屋委員

理想としては、プロスポーツチームや体育協会に御協力いただき、様々なスポーツを教えていただければ、ボランティア等にも協力することができるのではないかと考えている。スポーツを「する」ことで、将来的に「支える」ことも出来る。

会議が立ち上がったということもあるので、プロスポーツチームの方ともつながりを持てればと考えている。

檀野委員

これまでの議論の中で、体育協会に対する様々なご意見をいただいたが、体育協会としても、子どもからお年寄りまで、スポーツをあまり知らない方でも参加できるような、「みんなのスポーツフェスタ」等も行っている。

今月には、「ジャパンマーメイドカップ」というシンクロの大会を京都アクアリーナで行ったが、京都市、京都市体育協会でも市民優先招待事業を行い、広報することで、すぐに満席になった。私も、ダッシュ等は市民の方まで伝わらないと考えていたが、今回の事業を通して、裾野まで情報が行き渡っていると感じた。

今後も、子ども達が楽しめるスポーツからトップレベルのスポーツまで、様々な情報を京都市民の方々に知っていただけるような広報活動を行っていきたいと考えている。

二木委員

スポーツリエゾン京都の具体例として、世代間交流を深め、地域コミュニティを活性化していくことで高齢者福祉や地域福祉、そして青少年の健全育成を進めていく、ということが考えられるのだが、これらはまさに福祉分野で行おうとしていることである。しかし金銭的な支援等が多く、行政のメニューの限界を感じているのが現実である。

したがって、より実現性の高いスポーツをツールとした世代間交流を進めていくことを考えていきたい。

例えば、独居の高齢者は、機会がなければ外に出る機会が少ない。その中で、スポーツとの結びつきがあれば外に出て行く機会ができる。また施設に通われている方でも、施設に出向いて3B体操等を行

うなどを行うということも出来る。

このように、スポーツを通じて交流を進めることで地域福祉の推進と地域コミュニティが活性化していくと考えている。

松永委員

まずは、スポーツをしない人も注目するような事業と結びつくことで、メディアに取り上げられ、情報発信出来るのではないかと考えている。

今年の3月11日に京都マラソンが開催されるので、試験的に京都マラソンをプロジェクトとして立ち上げ、様々な団体と「支える」スポーツの視点から何か出来ないかと考えている。京都マラソンは市民の方をはじめ、日本全体が注目するイベント。このようなイベントで、何か出来れば、多くの方にリエゾンを送信出来る。

例えば、委員の方以外にも学生や大学のボランティアセンター等をプロジェクトの一員になっていただくというのはどうか。プロスポーツチームともつながることも出来る。

まずは具体的なイベントに合わせて考えていくべきだと考える。

そして、一年に一つはリエゾン事業をやっていかないといけないと思う。

先ほどから、スポーツウェブ京都が課題であるという話をしてきたが、より多くの市民の方にスポーツの情報を知っていただくためには、インターネットの整備等ではなく、メディアに取り上げていただけるような取り組みを行っていくことが大事だと思う。

森井委員

今年の1月に、委員の皆様と卓球バレー等を行い、すごく楽しかったことを覚えている。今後もこのようなことを出来ればと思っている。

私は、子どもからお年寄り、障害のある方すべての方が楽しめるスポーツを広め、そのような場が出来ればと考えている。

例えば、ゲートボールやソフトバレーボール、3B体操などをみんな出来る場を設け、ダッシュ等で広報し、たくさんの方に集まってもらう。そのような場があることで、ボランティアに携わっていただく方も増えていくのではないかと考えている。

長谷川委員

まずは、委員の交流を深めていくことが必要なのではないかと考えている。交流を深め、他団体の現状等を知ることでアイデアも出てくるのではないかと考えている。

山下委員長

松永委員の話でもあったように、具体的にプロジェクトチームを立ち上げて、行動していくのが現実的ではないかと思う。プロスポーツの地域貢献、マンパワーの活用、広報活動、京都マラソン、スポーツ団体以外とのつながり等様々なご意見いただいたが、時間も

ないので事務局と相談させていただいたうえで、いくつかテーマを選んで、プロジェクトチームを作ることができればと考えているがいかがか。

(一同賛同)

- 8 その他
アンケート等について説明（事務局）
- 9 閉会